

- 1 教育事業名 「わくわく自然体験 in とかしき」(ボランティア自主企画支援プロジェクト)
- 2 ね ら い 法人ボランティアが自主企画事業を実施するにあたり、各施設ボランティア・コーディネーターがその企画立案から指導・助言に携わることで、法人ボランティアが学びと活動の循環をしながら 成長していくための一助となることを目的とする。
- 3 期 日 令和5年10月21日(土)～10月22日(日) 1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家(本館、海洋研修場)
- 5 募集定員 小学5,6年生、中学生 30名程度
- 6 参加人数 28名
- 7 参加者内訳 小学5年生17名 小学6年生4名 中学1年生3名 中学2年生4名
- 8 実施プログラム

12 日 (土)	潮汐:中潮 満潮8:56(175cm) 干潮14:19(92cm)										
	12:00 13:00 14:00 16:00 18:00 19:00 21:00										
		フェリー	開 移 動 式	昼 食	テント 設営	海洋研修	野外炊事	夕食 片付け	昔語り ボン ファイヤー	入浴	
13 日 (日)	潮汐:中潮 満潮9:37(166cm) 干潮14:55(100cm)										
	7:30 9:00 10:00 11:30 12:30 14:00 15:30 16:40										
		底 上	朝食	テント 撤収	ロゲイ ニング	クラフト ①	昼 食	クラフト ②	閉 講 式	記念 移 動 撮 影	フェリー

9 事業の様子



テントOR



ランプシェード作成



グルクン捌き体験



ボンファイヤー



朝食(ピザ作り)



作戦会議



ランプシェード点灯式



ロゲイニング



エンディングの挨拶

11 参加者の声（アンケートより）

- ・大変だったけど、できて中に入ると居ごちがよかった。（テント設営）
- ・チャレンジアートのライトをつけると、きれいだった。（チャレンジアート）
- ・グルクンをさばくのはじめてだったけどおいしくたべれてよかった。（野外炊事）
- ・その日の思い出などをはなしあえてよかった。（ボンファイヤー）
- ・自分で1から作って食べました。おいしかったです。（ピザ作り）
- ・ウミヘビやいろいろな魚が見れて良かった。（スノーケリング）
- ・渡嘉敷島を探検できて良かった。（ロゲイニング）

ボランティアの声

- ・自分一人ではどうにかするのではなく協力し合うことで可能性が広がった。
- ・子どもの年齢層に応じた言葉使い、言葉選びが必要だと感じた。
- ・企画の内容を事前に現地で同じようなスケジュールにしたことが当日につながった。
- ・常に参加者目線で企画することの大切さを感じた。
- ・子どもたちは想像以上に自分達ですぐ友達になることができることを知った。
- ・人を巻き込みながら何かを作り上げる楽しさを伝えていける人になりたい。
- ・子どもへの声かけや盛り上げ方など今回学んだことを教育現場でも活かしたい。
- ・すぐにできないと判断するのではなく、実行するためにはどうすればできるのかという姿勢を持つようにしたい。
- ・来年は今年を超える自主企画事業としたい。

12 担当者所見

（1）成果

- ・昨年自主企画事業を経験した4名に新しく2名のメンバーが加わったことで、昨年の反省をいかしながら、新しい試みを取り入れることができた。
- ・泊港での受付から班別で担当を設けたことで児童生徒管理や進行がスムーズにいった。
- ・荒天の影響による日程変更をスムーズに行うことができた。
- ・「渡嘉敷の自然を満喫する」というテーマ設定により各プログラムにつながりが生まれた。
- ・ピザ作り、チャレンジアートなど各ボランティアの得意分野を活かした新しいプログラムを実施することができた。
- ・次年度の自主企画につなげるためのボランティア交流会、事業報告会を実施した。
- ・親子対象事業から小中学生対象の事業に切り替えたことで各プログラムを通して異年齢間の関わりが生まれる場面を多く見ることもできた。
- ・渡嘉敷集落でのロゲイニングを実施したことで参加者に渡嘉敷の文化に触れてもらうことができた。
- ・事業当日、日程が進むにつれ、ボランティア同士が自ら話し合いを持ち進んでいく場面が増えた。

（2）課題

- ・テントに入るタイミング、班活動を意識した行動、収集するサンゴ片の特徴など各プログラムのなかで細かい指示の出し方について改善点が挙がった。
- ・企画メンバーが4人抜けるため次年度へのつながりに工夫が必要である。